

盛岡労働基準監督署管内では、平成5年（1993）から令和3年（2021）までの約30年間で、労働災害による死傷者数が延べ14,582人となり、うち161名の方々が亡くなっています。

昭和33年（1958）から5か年計画で「第1次労働災害防止計画」が始まり、令和4年（2022）は「第13次労働災害防止計画」の最終年ですが、**減少目標の達成は非常に危機的な状況**です。

この30年間の動向をみると（グラフ参照）、第10次防以降、労働災害が殆ど減少しておらず、20年前とほぼ同じ水準となっています。これまで多くの労働災害が発生し、法改正や指針等が示され、或いは、行政指導や書類送検等が行われたものの、未だに同様の災害が繰り返し発生しています。

これ以上、死亡労働災害を発生させないため、5S活動など基本的な取組を手を抜かず確実に実践していただくとともに、リスクアセスメントにより**「危険の芽」を的確に摘み取りましょう！**

また、岩手県は少子化・高齢化の進行が顕著であり、若い人材の県外流出も進み、労働人口の高齢化と技術者の人材不足が深刻な状況に至り、後継者不足によりやむなく事業閉鎖する事例も出ています。

少子高齢化の流れは今後も確実に進むと思われ、今後、労働災害防止対策においても「高齢化」への取組が必須となっており、厚生労働省では「エイジフレンドリーガイドライン」を周知しています。
（設備改善には「エイジフレンドリー補助金」が活用できます。

厚生労働省 HP ➡ <https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/000791930.pdf>

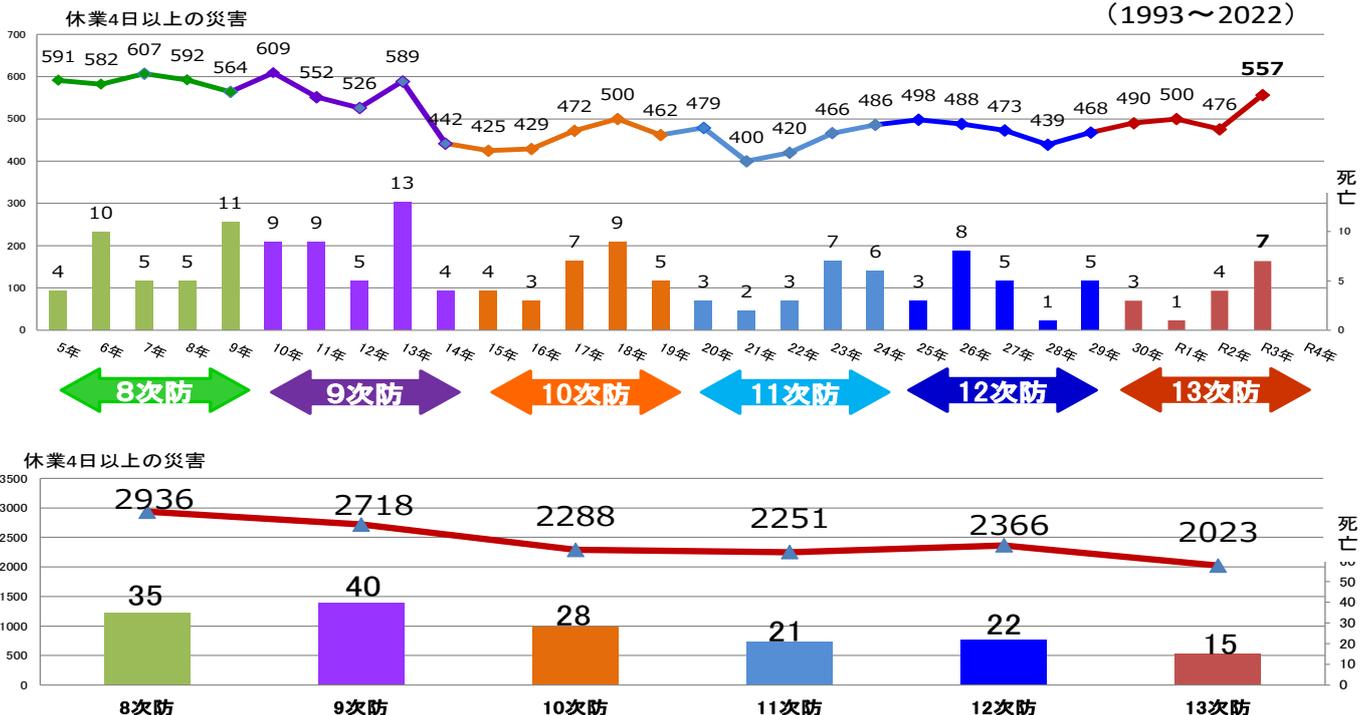
このような状況下、岩手県内では「転倒災害」が最多となっており、骨折により数か月或いは数年に及ぶ治療や重い後遺症を残す事例が後を絶たず**「転倒災害の防止」**が全業種を通じて重要な課題の一つとなっています。

各企業では転倒災害のリスクの拾い出しを行い、これを「危険マップ」に落とし込み「見える化」を進め、危険の芽を早め早めに摘み取りましょう。

また、転倒に強い体作りも必要であり、盛岡労働基準監督署では**「転倒予防体操」**を推奨しています。
（岩手労働局「転倒予防体操」で検索）

盛岡署管内の労働災害発生動向

(1993～2022)





熱中症への備えは準備万端ですか？



地球温暖化の影響により「数年に一度」と言われるような集中豪雨や猛暑などが毎年発生しています。気象庁は、今年の夏は太平洋高気圧が平年よりも北に張り出す傾向で、偏西風も平年より北を流れ、太平洋高気圧よりも上空にあるチベット高気圧も平年に比べ北東側に勢力を強めるため、**今年も猛暑が続き警戒が必要**と予想しています。

環境省と気象庁では、「**熱中症警戒アラート**」を令和4年4月27日（水）から10月26日（水）までの間、全国で運用しています。

この「熱中症警戒アラート」を有効活用し、今年の猛暑を乗り切りましょう。

「熱中症警戒アラート」（令和3年度）
全国における発表地域：53地域/58地域
発表日数：75日/183日
延べ発表回数：613回

厚生労働省では、5月1日から9月30日までの期間「**STOP！熱中症 クールワークキャンペーン**」として、職場の熱中症予防を働きかけています。（詳しくはこちら → ）

R4 クールワークキャンペーン

熱中症予防 チェックリスト



コロナ禍において、十分な感染対策を行いながら、熱中症予防にも心がける必要があります。

本格的な暑さがやってくる前に、熱順化を進め、必要な予防グッズ等の十分な準備、熱中症が発生した時の対応などについて社内研修を実施し、正しい知識で重篤な熱中症を予防しましょう。

熱中症予防 × コロナ感染防止で「新しい生活様式」を健康に！

【新しい生活様式】とは：新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗いの徹底や「換気（換気、換気）」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

注意 マスク着用により、熱中症のリスクが高まります
マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなり、気づかないうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。

熱中症を防ぐために **マスクをはずしましょう**

ウイルス感染対策は忘れずに

屋外で **人と2m以上**（十分な距離）離れている時

（マスク着用時は）

激しい運動は避けましょう
のどが潤いていなくてもこまめに水分補給をしましょう

気温・湿度が高い時は特に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.envy.go.jp/>

暑さを避けましょう

- 涼しい服装、日傘や帽子
- 少しでも体調が悪くなったなら、涼しい場所へ移動
- 涼しい室内に入れなければ、外でも日陰へ

のどが潤いていなくてもこまめに水分補給をしましょう

1日あたり **1.2L (7杯)** を目安に

1時間ごとに 入浴前後や起床後も コップ1杯、まづ水分補給を

ペットボトル 600ml、2本本
コップ約6杯

大量に汗をかいた時は水分も忘れずに

エアコン使用中もこまめに換気をしましょう
（エアコンを止める必要はありません）

注意 一般的に家庭用エアコンは、室内の空気を循環させるだけで、換気は行っていません

- 窓とドアなど2か所を開ける
- 扇風機や換気扇を併用する

換気後は、エアコンの温度をこまめに再設定

暑さに備えた体づくりと日頃から体調管理をしましょう

- 暑さに備え、暑くなり始めの時期から、無理のない範囲で適度に運動（「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度）
- 水分補給は忘れずに
- 毎朝など、定時の体温測定と健康チェック
- 体調が悪い時は、無理せず自宅で静養

知っておきたい 熱中症に関する大切なこと

熱中症警戒アラート発表時は **熱中症予防行動の徹底を！**
運動は原則中止、外出はなるべく避け、涼しい室内に移動してください。

熱中症による死亡者の約8割が高齢者
約半数が80歳以上ですが、若い世代も注意が必要です。

高齢者の熱中症は **半数以上が自宅で発生**
高齢者は自宅を涼しく、若い世代は屋外での作業中、運動中に注意が必要です。

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。
両方の方からも積極的な声かけをお願いします。

岩手労働局ホームページの「各労働基準監督署からのお知らせ」に盛岡労働基準監督署のコーナーを設けています。研修資料を掲載していますので、是非ご覧ください。

https://jsite.mhlw.go.jp/iwate-roudoukyoku/news_topics/kantokusho_oshirase/moriokakantokusyo.html

